

## 母。

香芝市立香芝北中学校 二年 白崎 栞杏

私の母はいつも楽しそうだ。いつも笑顔でテレビを見ているときや友達と直接会って話したり、電話をしているときなんかは家中に響きわたるくらい大きな声で笑っている。私の恋愛事情や私の学校のこと、私の交友関係だって多分、誰よりも知っているし誰よりも理解してくれていると思う。どんな相談にだって乗ってくれるしどんなに急がしいときでも時間をつくって話をきいてくれる。いわば母は母親兼友達みたいだ。もしかすると、それ以上なのかもしれない。

つい最近、SNSである動画を見た。この世で一番大変な仕事というテーマだった。私は興味があったので約三分ほどの動画をみることにした。その仕事は現場監督。でもそれ以上に大変で高い要求を受け入れる力と責任感が必要とされる。勤務時間は、一日二十四時間週七勤務。その仕事につくには医学や栄養学について知識がある人でなくてはならない。私欲の時間はなくなるし、年に一度しかないクリスマスやお正月ももちろん仕事。それにまさかのお給料は0。こんなブラック企業みたいな仕事いったい誰がするんだろう、そう思っていた。動画を見ていくとこの仕事をしている人はなんと、世界中に一億人以上の人がいると分かった。それは誰なのか。気づいている人もいるとは思う。そう、それは“母”だ。私たちを立派に育ててくれた“母”だったのだ。

思いかえせば、幼い頃からこれして！あれがほしい！そんなことを言ってばかりでも母は受け入れてくれたし、私が何かやらかしたときには一緒に謝ってくれた。風邪をひけば身の周りのことはなんだってしてくれるし自分もうつるかもしれないときにまだ幼かった私と一緒に寝てくれた。家族のためにおいしいご飯も作ってくれるし、ケガをすれば手当をしてくれる。クリスマスやお正月だって、私や弟が楽しめるように全力をつくしてくれるし母も全力で楽しんでいる。こんなにも私のために頑張ってくれている母だが、もちろんのことお給料なんてあったことがないはずだ。それでも毎日楽しそうな母には感謝と尊敬の気持ちでいっぱいだ。

ここまで母の嫌なところについていってこなかったが、もちろんないわけではない。私の母はとにかくしつこい。一度怒ると「分かった。」と何回言っても同じことをくり返し怒ってくる。五回目くらいになると、逆に私が腹立たしくなってくるので言い返してしまうとケンカの始まりだ。母は最近「調子乗ってんちゃうで！」とよく言うがそれにも腹が立ってくる。ついに反抗期が近づいてきたのだろうか。だが母は言った。しつこく同じことをくり返して言うのには理由がある、と。その理由はしつこいと思われても分かってほしいという気持ちからだった。私はすぐにめんどくさくなり、投げやりで終わらせてしまう。だが母はめんどくさくても、それほどまでに私に伝えたいと思ってくれていることに、母からの愛を感じた。

ついに母について一つの作文が出来あがってしまった。それほどまでに私は、母が大好きなのだ実感した。

この「少年の主張」を通して母への感謝の気持ちが深まった。私は日頃から母へ感謝の気持ちを伝えているつもりではいるがなかなか気恥ずかしい。伝えたくても伝えられない人が多いのではないのだろうか。それでも母の日なんかくらいは言葉にして、「いつもありがとう」と、伝えてみてほしい。きっと、すごく喜んでくれると思う。私は将来母のような、いつも笑顔で友達みたいに相談に乗って、子どもを思って怒れるような人になれるよう、母を人生のお手本にしたい。いつか自分の子どもに作文を書いてもらえようような母親になるために。